

I 第17週の発生動向 (2010/4/26~2010/5/2)

1. 感染性胃腸炎については、県全体の届出数は減少していますが、青森市保健所、上十三保健所、むつ保健所管内では多い状態が継続していることことから注意が必要です。
2. 水痘については、むつ保健所管内において**注意報**が発令されました。

II 第17週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

青森県内の定点(医療機関)数については青森県感染症発生動向調査TOPページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 +内科 (85) インフルエンザ														0					
小児科 (74) RSウイルス感染症			1	0.1	1	0.1					1	0.3	3	0.1	-5				
(75) 咽頭結膜熱	1	0.1	5	0.6							9	2.3	15	0.4	10			1	0.1
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	1.3	5	0.6	4	0.4	1	0.2	2	0.3	12	3.0	36	0.9	-19	1	1.0	11	1.4
(77) 感染性胃腸炎	92	10.2	36	4.0	18	2.0	17	3.4	65	10.8	49	12.3	277	6.6	-9	6	6.0	86	10.8
(78) 水痘	2	0.2	13	1.4	8	0.9	3	0.6	11	1.8	20	5.0	57	1.4	-3			2	0.3
(79) 手足口病	3	0.3					3	0.6	1	0.2			7	0.2	7	3	3.0		
(80) 伝染性紅斑	6	0.7	1	0.1	1	0.1			3	0.5			11	0.3	-6			6	0.8
(81) 突発性発しん	3	0.3	1	0.1	4	0.4			5	0.8	3	0.8	16	0.4	-1			3	0.4
(82) 百日咳														0					
(83) ヘルパンギーナ	3	0.3											3	0.1	1			3	0.4
(84) 流行性耳下腺炎	10	1.1	1	0.1	3	0.3	2	0.4					16	0.4	-14	5	5.0	5	0.6
眼科 (86) 急性出血性結膜炎														0					
(87) 流行性角結膜炎	1	0.5			1	0.5	2	2.0					4	0.4	0			1	0.5
基幹 (92) クラミジア肺炎														0					
(93) 細菌性髄膜炎														0					
(95) マイコプラズマ肺炎			2	2.0	4	4.0					6	6.0	12	2.0	-1				
(96) 無菌性髄膜炎														0					

■ は警報、■ は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 表II以外の感染症法対象疾患

(注：届出状況は速報値です)

(9) 結核(二類全数把握疾患)：五所川原1人、上十三2人

(22年計：79人)

IV 病原体検出情報

・病原体情報はありませんでした。

☞過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の感

(人/定点)

手足口病

(五類定点把握)

※全国値は第16週までです。



図 全国及び青森県における届出数推移 (2008-2010年第17週)

5月7日、国立感染症研究所は、手足口病の患者が急増し、この時期としては過去11年間で最多になっていることを発表し、注意を呼びかけました。

本疾患は、3~5日の潜伏期間において、口腔粘膜、手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性の感染症です。原因はコクサッキーA16型や、エンテロウイルス71型などのエンテロウイルスです。通常、幼児を中心に夏季に見られ、多くは予後良好ですが、まれに、髄膜炎や脳炎などを起こすこともあるため注意が必要です。本県の患者数は第17週現在、少ない状況にはありますが、今後の動向に注意が必要です。感染は、くしゃみや鼻水などの飛沫感染、排泄物からの経口感染、水疱内容物の直接感染などから起こるため、手洗いの励行や排泄物の適切な取り扱いが重要です。